

林産試験場創立 50 周年

- 記念式典の様子を紹介します -

1950年に北海道立林業指導所として開設以来、林産試験場（1964年に名称変更）は2000年に50周年を迎えました。

林産試験場は、北海道の森林資源の高度利用技術開発および北海道の木材産業の振興と発展を目的として設立されました。大きな特徴は、研究室のほかに実際に生産が可能な規模の工場（以下中間試験工場）を設けたことです。研究室で生まれた新しい技術や改善された技術を中間試験工場で試験することで、経済性を加味した研究を進め、産業界の技術革新に直接貢献するのが狙いです。さらに、この中間試験工場を利用して、研究成果を普及・指導するとともに、技術者や技能者の養成に努めています。

開設以来ちょうど半世紀を迎え、これまでの研究成果を振り返り、さらなる飛躍への区切りとして、「50年間の試験研究成果」を発行しました。また、8月4日（金）、林産試験場講堂にて「林産試験場創立50周年記念式典」を行いましたので以下に紹介します。

まず、大久保勲場長が「諸先輩や関係業界など様々な方々のご支援によって我々林産試験場が支えられているということを忘れてはならない」、「木材の需要拡大に向けた研究に一層取り組むとともに、木材産業技術センターとしての役割を一層高めて参りたい」と挨拶しました。

続いて大野馨北海道水産林務部長と竹内久彌（社）北海道林産技術普及協会長よりそれぞれお祝いの言葉を頂きました。

祝電披露の後、「北海道乾燥材普及協議会」と「北海道木製窓協会」に対して大野北海道水産林務部長より知事感謝状を贈呈しました。

北海道乾燥材普及協議会は、1986年に全国に先駆け人工乾燥を通じて木材の欠点である「狂い」を克服し、優良な建築資材の生産と需要拡大に貢献することを目



挨拶する大久保林産試験場長



祝辞を述べる大野水産林務部長



式典中の職員の様子



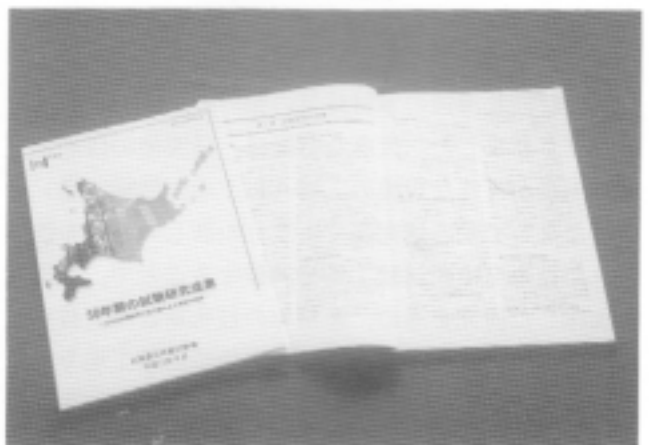
知事感謝状贈呈



講演をする宮島氏



スライド上映



8月に発行した「50年間の試験研究成果」

的として設立されました。道内各地で建築設計事務所や工務店並びに消費者を対象とした講習会や研修会を開催し、乾燥材の技術者養成に尽力されているほか、乾燥材の良さの普及啓発に努めています。

北海道木製窓協会は、国内での木製サッシの普及を図る団体として1986年に発足しました。それまで不統一だった木製サッシの性能基準を1990年に自主性能基準として策定し、北海道の木製サッシの性能向上に貢献するほか、全国木製サッシ協議会と協力し、木製サッシの需要拡大に尽力されています。また、林産試験場と共同で木製サッシフォーラムを開催するほか技術研修会等の企画運営など住宅関連分野での木材の需要拡大への取り組みにも尽力されています。

感謝状贈呈の後、「林産試験場の50年」と題し、スライド上映を行いました。26枚のスライドを使い、開設当時の職員の顔ぶれ、林業指導所の外観、1955年頃の各部門の職員や施設の様子、運動会や場内公開の様

子などを紹介しました。

その後、(社)北海道林産技術普及協会顧問である宮島寛氏に「建築材料としての木材」と題して、日本や世界での木造建築や木の文化について、スライドを使って分かりやすくご講演頂きました(詳細につきましては(社)北海道林産技術普及協会発行の「ウッディエイジ」2000年9月号を参照ください)。

21世紀を目前に、社会は地球環境との共生や持続可能な経済・産業の発展へと大きく変化しつつあります。それに従い木材関連産業を取り巻く環境も、開設当初から見ると大きく様変わりしています。林産試験場では、これからも社会の変化を的確に捉え、産業界に直結する新しい技術開発・技術改良に努め、北海道の発展に貢献していきますので、より一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

(林産試験場 普及課)